

平成 20 年度事業報告

1 学校図書館及び青少年の読書の振興のための活動の普及、啓発

学校図書館及び青少年の読書の振興のための活動の普及、啓発については、以下のような事業を実施した。

(1) 全校における読書指導の推進

読書指導は国語科や学校図書館担当者だけが行うものではなく、全教員が全教科・領域で行うものである。効果的な指導法の開発、普及等を通して全校あげての読書指導の推進を展開した。

(2) 「考える読書」運動の推進

読書は思考力、判断力、読解力を培うために最適なものである。特に、現在、読解力の育成が課題となっている。学校図書館を活用する学習指導、計画的な読書指導、読書会等を活性化する運動を展開した。

(3) 司書教諭制度の充実を図る運動の展開

文部科学省の平成 20 年度「学校図書館の現状に関する調査」によれば、司書教諭に発令された者は 25,197 人(11 学級以下を含む)である。しかし授業時数の軽減を講じている学校は 9.6%に過ぎず、多くの司書教諭は、学級・教科担任との兼務のために日々の活動の遂行が困難となっている。平成 21 年 2 月 6 日に各県 SLA 会長、事務局長が地元選出の国会議員に「司書教諭の専任化と学校司書の法制化」、「学校図書館の図書の実践」、「教育課程への読書時間の設定」の実現について陳情した。

(4) 学校司書の配置促進と法制化の推進

標準法に定める学校図書館担当職員(学校司書)の配置が徹底するように趣旨の周知を図るとともに、現在各地で進められている学校司書の配置の促進を図る運動を展開した。文部科学省が設置した「子どもの読書サポーターズ会議」が 20 年 9 月に発行したパンフレットに、「学校司書」の名称が明記されたことは画期的なことであり、運動の成果である。

(5) 中央教育審議会等への提言・要請

学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館機能の強化・充実を促す要望書を作成し、全国連合小学校長会・全日本中学校長会に要望するなど、その具体化に向けての運動を展開した。

(6) 「子ども読書活動推進法」、「文字・活字文化振興法」による学校図書館整備充実を図る運動の展開

「子ども読書活動推進法」、「文字・活字文化振興法」に規定する読書活動の推進、学校図書館の整備充実等を受けて、全国学校図書館協議会（以下「全国SLA」という。）と各都道府県学校図書館研究団体（以下「各県SLA」という。）が協力して、学校図書館の整備充実を図る運動を展開した。

(7) 「新学校図書館図書整備5か年計画」に基づく予算化運動の展開

平成19年度より5か年にわたる「新学校図書館図書整備5か年計画」（総額1,000億円）の2年目にあたり、各自治体で予算化されるよう運動を展開した。平成20年9月に学校図書館整備推進会議と協力・連携して、1,810市町村教育委員会に対して図書購入費の予算化の要請と予算化状況のアンケートを実施した。1,292教育委員会からの回答を得、その結果を公表した。

(8) 高等学校の図書整備施策策定に向けての活動の展開

「新学校図書館図書整備5か年計画」の対象外とされている高等学校の図書購入費は、年々減少傾向が続いている。高等学校「学校図書館図書標準」の制定、学校図書館の図書費の増額を図るよう要請した。

(9) 学校図書館支援センターの拡充に向けての活動の展開

文部科学省が平成18年度の新規事業に掲げた「学校図書館支援センター推進事業」を受けて、全国57カ所の学校図書館支援センターの活動の充実に向けて運動を展開した。

(10) 「子ども読書の日」及び「文字・活字文化の日」にちなんだ行事の普及

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に定められた「子ども読書の日」及び「文字・活字文化振興法」に定められた「文字・活字文化の日」にちなんで、子どもの読書にかかわる行事の普及を図った。

(11) 学校図書館整備推進会議等関係団体の活動への参加

学校図書館の支援団体である学校図書館整備推進会議（図書館、読書運動、出版関係等32団体で構成）の活動に参画し、学校図書館の整備充実に向けて運動を展開した。

(12) 全国SLA学校図書館活動推進委員会の活動の展開

各県SLAの元役員や学校図書館の研究・運動に実績のある退職教員等で構成する学校図書館活動推進委員会を拡充し、各県SLA及び各地の読書活動、学校図書館活動を支援した。会報第14号・第15号を発行し活動を総括した。

(13) 「学校図書館の日」の普及と事業の推進

6月11日の「学校図書館の日」にふさわしい行事や研究集会を、全国SLA及び各県SLAで開催した。6月10日に「学校図書館の日記念 学校図書館賞・学校図書館出版賞表彰式」を開催し、157名の参加者を得た。

(14) 学校図書館担当者のためのスキルアップ及びリカレント教育の実施

学校図書館の機能を充実させるため、現に学校図書館の業務に携わっている司書教

諭や学校司書等を対象にした研修会「スキルアップ講座」を学校図書館センターにおいて開催した。

(15) 第10回「学校図書館セミナー」の開催

平成20年11月26日、第10回図書館総合展(主催:図書館総合展運営委員会、会場:横浜市・パシフィコ横浜)において、「知識基盤社会における学校図書館の在り方」を主題に第10回「学校図書館セミナー」を開催した。83名の参加者を得た。

(16) 学校図書館向き図書の選定及び選定図書への件名付与の実施

小・中・高等学校図書館向き図書の選定事業を継続して実施した。選定会議は23回開催し、その結果6,812点の図書を選定した。選定図書は機関誌『学校図書館速報版』で逐次発表した。また、選定図書に件名を付与し、同速報版で発表した。

(17) 第41回「夏休みの本」(緑陰図書)の選定

夏休みの間にぜひ読んでほしい本を小・中・高校生向き40点選定し、第41回「夏休みの本」(緑陰図書)として機関誌『学校図書館速報版』(6月15日号)で発表した。

(18) 学校図書館ブッククラブ(SLBC)の図書の選定

SLBC(学校図書館向け図書の共同購入組織)の委嘱を受け、SLBC用図書の選定を3回(第1期～第3期)実施した。

(19) 第54回青少年読書感想文全国コンクールの実施

読書の習慣化を図り、豊かな人間性や考える力を育むことなどを目的に、青少年読書感想文全国コンクール(毎日新聞社と共催)を実施した。参加校数28,827校、応募総数4,418,141編であった。内閣総理大臣賞の5名含み106名が入賞、626名が入選賞を授賞した。平成21年2月6日、上位入賞者65名、サントリー奨励賞代表1名、入選賞代表1名、読書感想文推進賞3校を招待して東京會館において表彰式を行った。

(20) 第20回読書感想画中央コンクールの実施

読書の感動を絵画表現することによって、読書力や表現力を養うことを目的に、読書感想画中央コンクール(毎日新聞社と共催)を北海道、山口県・九州地区を除く37都府県で実施した。参加校数7,354校、応募総数555,385点であった。最優秀賞の4名ほか24名が入賞、合計28名を授賞した。平成21年2月27日、入賞者28名、奨励賞代表者1名を招待して、如水會館において表彰式を行った。

(21) 第39回学校図書館賞の授賞

学校図書館の振興に著しい業績を示した個人及び団体を顕彰する「第38回学校図書館賞」(著作論文、運動、実践活動の3部門構成)の選考を行い、平成20年6月10日日本出版クラブ會館において、入賞者を招いて表彰式を開催した。引き続き第39回学校図書館賞の募集をし、選考を行った。第38回では第1部で1論文が、第3部で1団体の取り組みが授賞した。第39回では、第1部で1論文、第2部で1名、第3部で1団体の取り組みが授賞した。

(22) 第10回学校図書館出版賞の授賞

学校図書館向き図書の優良な出版企画に対して出版社を表彰する「第10回学校図書館出版賞」として学校図書館出版賞大賞を1社、学校図書館出版賞を1社、また学校図書館出版賞特別賞を1社授賞した。平成20年6月10日、入賞社関係者を招いて日本出版クラブ会館において表彰式を開催した。

(23) 第14回日本絵本賞の授賞

絵本芸術の普及、絵本読書の振興、絵本出版の発展に寄与することを目的に「第14回日本絵本賞」を実施した(毎日新聞社と共催)。日本絵本大賞1点、日本絵本賞3点、「日本絵本賞読者賞」(山田養蜂場賞)1点を授賞した。平成21年3月25日、受賞者11名を招待して、毎日ホールにおいて表彰式を行った。

(24) 第32回「絵本週間」の実施

優れた絵本文化の発展と、教育の場や家庭にいつそう絵本読書が定着することを願って「絵本週間」を実施した。

(25) 国内及び諸外国の学校図書館団体等との連絡提携

社団法人読書推進運動協議会、学校図書館整備推進会議、国際子ども図書館を考える全国連絡会、子どもの読書推進会議、IASL(国際学校図書館協会)等の活動に参加するとともに情報の交換を行った。

2 学校図書館及び青少年の読書に関する調査研究

学校図書館及び青少年の読書に関する調査研究については、本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 「新教育システム開発プログラム」研究の実施 委嘱研究協力校による研究継続

文部科学省の「新教育システム開発プログラム」(リソース)の研究委託を受け、読書力等の向上に学校図書館の図書の果たす役割について実証的な研究を行う予定だったが、文部科学省の事業打ち切りにより、あらためて全国学校図書館協議会委嘱研究校として協力校を募集した。その結果小学校32校(うち3年継続22校)、中学校14校(うち3年継続13校)、合計46校の協力が得られ、前述したテーマで研究に取り組んだ。

(2) 「教科指導に活用できる学校図書館」の委嘱研究

学校図書館は、教科指導に活用する学習センターとしての機能が求められている。どのようにすれば学習センターとしての機能を発揮できるかを小学校、中学校に研究を委嘱して明らかにする予定だったが、(1)の委嘱研究に集約した。

(3) 「学校図書館運営基準」(仮題)の研究

学校図書館がその機能を果たすためには一定の方針に基づいた継続的な経営・運営が必要である。各学校図書館で基準を作成する際に参考とするための標準的な経

営・運営の基準の作成をめざし検討してきた。

(4) 第54回学校読書調査の実施

青少年の読書推進や読書環境整備等に資するために、全国から抽出した小・中・高校生 10,477 人を対象に、読んだ本の量、読んだ本の題名、読書生活などの実態調査を6月に実施した。(毎日新聞社と共催)機関誌『学校図書館』2008年11月号に調査報告を発表した。

(5) 平成20年度学校図書館調査の実施

学校図書館の整備充実を図るため、小・中・高等学校を対象として学校図書館の蔵書、予算、職員、運営等の実態調査を実施した。(6月・全国の小・中・高等学校から3%を無作為抽出)

(6) 市区町村における学校図書館図書整備費予算化の実態調査の実施

全国の市区町村教育委員会に対して、学校図書館図書整備費200億円を予算化するよう要請するとともに、義務教育諸学校に対する予算化状況のアンケートを実施した。(学校図書館整備推進会議と共催) 1-(7)参照
調査結果を機関誌『学校図書館』2008年11月号、2009年3月号及びホームページに掲載した。

(7) 「学校図書館評価基準」の普及

学校図書館のいっそうの整備充実を図るために、全国の学校図書館で利用できる「学校図書館評価基準」の普及を図った。熊本大会において分科会を設定、活発な意見交換が行われた。

(8) 全国学校図書館研究大会(熊本大会)の開催

第36回全国学校図書館研究大会(熊本大会)を8月6日、7日、8日の3日間、熊本県民劇場、熊本学園大学において開催した。大会主題「学びの力を培い、豊かな未来を創る学校図書館」のもと、85分科会を設定し、研究討議を展開した。参加者は2,100名。

(9) 海外学校図書館研究視察の実施

「アメリカの教育改革およびそれを支える学校図書館の実情を視察し、わが国の教育と学校図書館の今後のあり方を考える」を趣旨として、北米の学校図書館視察を行った。平成21年1月4日から11日まで8日間の日程で、総勢25名がシカゴ・ボストン・ニューヨークの3都市を訪問し、小・中・高校・文化施設など17の学校や施設を視察した。施設の見学とともに地元のライブラリアンや教育庁の方との交流も図れ、意義ある視察となった。

3 各都道府県学校図書館研究団体の活動の推進

各都道府県学校図書館研究団体の活動の推進については、本年度は以下のような事業を実

施した。

(1) 各県S L A事務局長会議の開催

平成21年2月5日、学校図書館センターにおいて全国S L Aの事業、組織、活動について連絡調整を図るため各県S L A事務局長会議を開催した。参加者64名。

(2) 教科指導に活用できる学校図書館の研究

現在の学校図書館は、学習センターとしての機能が特に求められている。その機能を有効に活用し、教科指導の実践と成果の蓄積、共有化を図れるよう、研究会や機関誌を活用し推進に努めた。

(3) 子ども読書活動推進計画による学校図書館の整備充実を図る運動の展開

国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、現在、市区町村段階で「子ども読書活動推進計画」が策定されている。同推進計画に学校図書館の整備充実が具体的に盛り込まれるよう各県S L A及び市町村S L Aが要請した。

(4) 「新学校図書館図書整備5か年計画」に基づく予算化運動の展開

平成19年度より実施された「新学校図書館図書整備5か年計画」(総額1,000億円)による図書費が完全に予算化されるよう各地域で積極的な要請活動を展開した。

(5) 学校図書館整備充実を図るための機関誌『学校図書館』及び『学校図書館速報版』の活用と普及

学校図書館に関する研究を深めるため、学校図書館活動推進委員や各県S L Aの協力を得て機関誌『学校図書館』及び『学校図書館速報版』の活用と普及活動を行った。

(6) 『各県交換情報』の作成と活用

各県S L Aの組織や活動等について、『各県交換情報』をホームページに掲載し、その活用を図った。

(7) 各県S L A組織訪問の実施

全国S L Aと各県S L Aの連携を強化するため、全国S L Aの役員等が鳥取県学校図書館協議会、及び静岡県教育研究会学校図書館研究部、静岡県高等学校図書館研究会を訪問し、組織運営や研究活動等について情報交換を行った。

(8) 各県S L Aへの研究助成

各県S L Aの研究活動を支援するため研究助成を行った。

4 学校図書館及び青少年の読書に関する出版物の刊行

学校図書館及び青少年の読書に関する出版物の刊行については、本年度は以下のような書籍及び雑誌を出版した。

(1) 機関誌『学校図書館』及び『学校図書館速報版』の刊行

学校図書館の充実や青少年の読書推進運動を展開するため、機関誌『学校図書館』(月刊)及び『学校図書館速報版』(月2回刊)を刊行した。『学校図書館』は、学校図書館

や青少年の読書に関する実践や研究論文等を掲載。『学校図書館速報版』は、学校図書館や読書に関する最新ニュース、学校図書館メディアに関する情報等を掲載、『学校図書館』は12回、『学校図書館速報版』は24回発行した。

(2) 写真ニュース『としょかん通信』の刊行

学校図書館や読書に関する情報及び学校図書館の利用に役立つ情報を掲示用写真ニュースとして、月刊『としょかん通信』(小学生版・中高校生版の2種)を各12回刊行した。

(3) 『学校図書館基本図書目録 2009年版』の刊行

小・中・高等学校の図書館に基本的に備えたい図書を厳選し、解説・分類番号・件名・ISBNコードを付した『学校図書館基本図書目録 2009年版』を刊行した。

(4) 『新しい教育をつくる司書教諭のしごとシリーズ』の刊行

司書教諭になった方のための、また日頃学校図書館の活動をより深めたいと思っている方のための実務シリーズ。平成20年度は刊行には至らなかったが、平成21年度、7月から9月に4冊の刊行を予定している。

(5) 『集団読書テキスト』の改訂と新刊の刊行

読書会や朝の一斉読書等のためのテキストとして『集団読書テキスト』を刊行する。現在、小学校向き39点、中・高校向き59点。改訂は行ったが、新刊の刊行には至らなかった。

(6) 『学校図書館入門シリーズ』の刊行

学校図書館の基本的な仕事の意義や具体的な手順を解説したシリーズ。『わくわくブックトーク』、『読書会をひらこう』の2点を刊行した。

(7) 『読書感想文の指導』(仮題)の刊行

読書感想文指導の徹底を図るための『読書感想文の指導』(仮題)の刊行に至らなかった。平成21年9月刊行を予定している。

(8) 必読図書目録『何をどう読ませるか』の改訂

小・中・高校生の読書の指針となる『何をどう読ませるか』の改訂に至らなかった。

(9) 『第24回よい絵本』の刊行

絵本読書の普及を図るため全国SLA絵本委員会の研究成果をまとめた解説目録を刊行した。

(10) 『学びかたノート』の改訂

児童生徒の学習法、情報活用法等を学ばせるノート『図書館・学びかたノート』を改訂した。

(11) 『学校図書館の展示・掲示』(仮題)の刊行

学校図書館を魅力的にするための展示・掲示のアイデアと事例を盛り込んだ『学校図書館の展示・掲示』(仮題)の刊行に至らなかったが、『魅力的な学校図書館デ

イスブレイ』と書名も決定し、平成21年7月末刊行を予定している。

(12) 『新学校図書館学』の改訂

現在の新たな情勢を踏まえ、内容を一新した『新学校図書館学』の改訂版の刊行に至らなかったが、平成21年、22年度中の刊行を予定している。

(13) 『支援センターを中核とする学校図書館ネットワーク』(仮題)の刊行

文部科学省の「学校図書館支援センター推進事業」で始動した「学校図書館支援センター」に関する理論的、実践的に解き明かす『支援センターを中核とする学校図書館ネットワーク』(仮題)の刊行に至らなかった。

(14) 『学校図書館・司書教諭講習資料 第6版』の刊行

司書教諭講習科目を学ぶための参考となる資料を一冊にまとめたもの。第5版以降改正、改訂された法令・基準等を更新した。

(15) 『情報を学習につなぐ』の刊行

「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」の全項目について具体的に詳述し、解説書として刊行した。

5 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

その他この法人の目的を達成するために必要な事業として、本年度は以下のような事業を実施する。

(1) 公益社団法人への移行の検討

公益法人制度の改正により、新たな社団法人への移行に関する検討を行い、定款の改正等、移行の準備をすすめてきた。

(2) 賛助会員の募集

全国S L Aの目的に賛同し事業を援助する賛助会員のうち、企業等を中心とする特別会員の募集を行った。特別会員は会費年額1口5万円。現在91社。

(3) 学校図書館講演会の開催

特別会員を招き、教育や学校図書館、情報メディアなどに関する講演会を開催した。平成21年3月9日に行い、36社から54名が参加した。

(4) 学校図書館研究資料室の整備充実

学校図書館に関する基本的な資料の整備充実を図った。